



ふれあいひろば

[患者とともにある全人的医療]

小児の消化管内視鏡検査

光学医療室長 古川浩一

当院では小児の消化管内視鏡検査を行っております。

多くのお子さんが、吐き気、嘔吐、腹痛、食欲不振、下痢などの消化器症状を呈し受診されます。その原因には様々な病態が考えられます。時に、急性胃炎、胃十二指腸潰瘍、胃食道逆流症（逆流性食道炎）などが原因になっていることがあります。これらの病気の診断や治療効果の判定には、上部消化管内視鏡検査が重要となります。また、潰瘍や胃癌の原因となるヘリコバクターピロリ菌は日本人に非常に多く、小児期に感染が成立し慢性感染へと移行すると考えられています。内視鏡検査はピロリ菌の検出や関連する病気の診断にも非常に有効です。潰瘍性大腸炎やクローン病など適切な診断と治療がなされないと重篤な状態まで悪化してしまう病気についても診断や治療の評価に必要な検査です。また、近年増加傾向にある消化管アレルギー（ミルクアレルギーや好酸球性胃腸炎）の診断においても中心的な検査の一つとして位置付けられてきています。

一方で安全に安心して消化管内視鏡を行うには、ただ単に内視鏡に慣れた先生がいれば何とかなるわけではありません。たとえば小児内視鏡では、麻酔科の先生の役割も極めて大切です。日本麻酔科学会第63回学術集会では、検査

のための鎮静で児の2割に低酸素血症が発生し、その原因として麻酔科医による全身管理の実施率が国立成育医療研究センターでさえ4割と極めて低いことが忌々しきリスクとして指摘されています。当院では小児の内視鏡を実施する際には小児科、小児外科の先生はもちろん麻酔科の先生も加わり万全の態勢で検査を行っております。

実績としても2007年12月～2017年11月までの期間で16歳以下の内視鏡検査341件（上部消化管内視鏡検査 199件、下部消化管内視鏡検査140件、胆膵内視鏡2件の検査を行ってきました。もちろん県内随一というばかりではなく、公的なこども病院を有する近隣の医療機関との比較でもトップクラスの検査件数となっております。

当院の小児の内視鏡検査は件数のみならず、熟練した医療チームが連動して行っておりますので質の高い医療を提供することが可能となってきました。引き続き、安心安全な高い水準の医療を安定的に提供できますよう医療スタッフ連携して維持、向上をはかっていきたいと思っております。

年齢別	0歳～2歳	3歳～6歳	7歳～10歳	11歳～12歳	13歳～16歳
内視鏡検査数	63件	43件	47件	43件	144件
全身麻酔	96.9%	86.0%	53.2%	42.9%	7.6%
静脈麻酔	3.1%	14.0%	46.8%	58.4%	61.1%

慢性腎臓病(CKD)と透析医療

腎臓リウマチ科部長 近藤 大介

最近、慢性腎臓病 (chronic kidney disease: CKD) という言葉がテレビや新聞などでも多く取り上げられるようになってきています。高血圧や糖尿病、腎炎など、様々な病気によって徐々に腎臓の働きが低下していく状態です。CKDの方は全国で1330万人に達するとされ、新たな国民病といわれています。しかしCKD初期にはほとんど自覚症状が無く、自分自身がCKDであることに気づいていません。検診などを受けて初めて、尿異常(尿蛋白や尿潜血)、血液老廃物であるクレアチニン高値などからCKDであると診断されます。

早期に気づいて治療を行えば、病気を治したり、進行を抑えることもできますが、放っておくと数年から数十年の経過で徐々に腎機能が低下し、腎機能が正常の10%を下回るような時期になると、体が浮腫んだり、血液の濃さが薄くなったり(貧血)、食欲不振、倦怠感などの症状が出現します(尿毒症といいます。)

慢性に経過してこのような状態に至った場合は、腎臓は萎縮し、治療を行っても腎機能の回復は期待できません。その場合は腎臓の働きを肩代わりする治療の開始が必要となり、これが一般に透析治療と言われるものです。

透析治療は、血液老廃物や体に貯留した水分の除去、ミネラルの調整、貧血の是正など、元々腎臓

が営んでいた働きの一部を肩代わりする治療です。もっとも有名で普及している血液透析(HD)の他に、腹膜透析(PD)という方法もあり、これはお腹の中(腹腔内)に透析液を出し入れして、血液の老廃物を透析液に溶かして排泄する方法です。

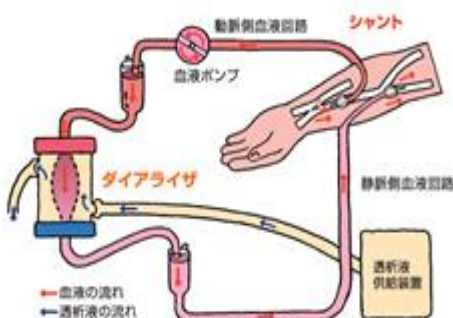
血液透析は1回4時間の透析を週3回病院・医院に通院して行う治療ですが、腹膜透析は基本的に自宅で自分が行い、通院は月に1-2回程度です。両者とも長所、短所がありますが、自分の生活スタイルなどに合わせて選択できます。現在全国には33万人を超える透析患者さんがおられ、国民400人に1人は透析を行っている時代です。長い患者さんでは40年間も透析を行っておられます。

透析治療に関連する技術や機材、薬剤の開発、進歩により、着実に透析患者さんの健康状態、生活の質は改善してきています。

腎臓病治療の進歩により、透析を新たに始められる患者さんが少なくなることを願っていますが、透析治療を受けながら、楽しく輝きのある生活を送られている患者さんが大勢いらっしゃることを是非知って頂ければ幸いです。



腕の血管(バスキュラーアクセス/シャント)に針を刺しポンプを使って血液を体の外に取り出し、**ダイアライザ**(透析器)に循環させて尿毒素を除去した後、体に戻します。



透析液を腹膜に注入し、血液浄化します。

血液透析では血液を体外に取りだして血液の浄化を行います。腹膜透析では腹腔内(下図参照)に直接透析液を注入し、一定時間貯留している間に腹膜を介して血中の尿毒素、水分や塩分を透析液に移動させます。十分に移動した時点で透析液を体外に取り出すことにより血液浄化が行われます。透析液は外気に触れることなく、通常は自然の落差を利用して透析液の交換を行います。注液時には新しい透析液バッグを腹腔より高い位置に置きます。一方、排液時には空のバッグを腹腔より低くして透析液を排液バッグに取りだします。



「高齢者の脳卒中、治療・予防」

循脳ニュース

循環器病・脳卒中センターニュース 通算26号

脳卒中科部長 森田 健一

脳卒中という言葉は一般的な用語で、正式には脳血管障害といいます。「脳の血管が詰まったり、破れたりして、いろいろな脳の症状が現れるすべての状態」のことで、大きくわけますと、血管が詰まる脳梗塞、血管が破れる脳出血、脳動脈瘤破裂等によるくも膜下出血が含まれます。

脳卒中の患者数は現在約117万人といわれ、毎年約27万人が新たに発症していると推測され増加しております。

右側の脳が体の左半分、左側の脳が体の右半分の神経を支配しています。脳卒中をおこしますと、症状は一般に「体の半分だけ」に出現するという特徴があります。片側の顔面が動かない、片側の手足が動かない・しびれる、呂律が回らない・言葉がでない等の症状がみられましたら、脳卒中が考えられます。

症状が出現しましたら、発症後3～6時間以内に初期治療を受けることが望ましいです。一刻も早く医療機関を受診しましょう。

脳卒中の予防には下記の十項目が非常に大切です。下記の項目に気をつけて、脳卒中の予防をしましょう。

【脳卒中予防の十か条】（日本脳卒中協会監修）

- 一、手始めに **高血圧**から 治しましょう
- 二、**糖尿病** 放っておいたら 悔い残る
- 三、**不整脈** 見付き次第 すぐ受診
- 四、予防には **タバコ**を止める 意志を持って
- 五、**アルコール** 控えめは薬 過ぎれば毒
- 六、高すぎる **コレステロール**も 見逃すな
- 七、お食事の **塩分・脂肪** 控えめに
- 八、体力に あった**運動** 続けよう
- 九、万病の 引き金になる **太りすぎ**
- 十、**脳卒中** 起きたらすぐに 病院へ

脳梗塞を早く見つけるためのポイント



できるだけ早く治療を開始することが重要

血液の固まりを溶かす薬

脳を保護する薬

脳のむくみ(腫れ)を抑える薬

血液の固まりができるのを抑える薬



(NO!梗塞.netより引用)

「筍（たけのこ）」

栄養管理科

たけのこの旬は4～5月で、種類は孟宗竹（モウソウチク）、淡竹（ハチク）、真竹（マダケ）、根曲竹（ネマガリダケ）などがありますが、一般的に食べられているのは孟宗竹です。

たけのこは「朝掘ったら、その日のうちに食べろ」と言われるくらい鮮度が大切で、掘りたてであれば生で食べられますが、時間が経つごとに、えぐ味が増えるため調理の際にはアク抜きをします。

アク抜き 外側の皮を2～3枚取り、あとは皮のまま水洗いします。先を斜めに切り落とし皮の部分に1本切れ目を入れます。鍋に水と約10%の米ぬか、唐辛子2本程度を入れて落しぶたをし、1時間ほどゆでます。串をさして、ゆで具合を確かめてから火を止め、自然に冷まします。米ぬかが無ければ米のとぎ汁で代用してもよいです。

保存方法 すぐにアク抜きし、ゆで汁と一緒に密閉容器に入れて冷蔵保存します。

栄養 食物繊維が豊富で便秘を改善してくれます。また、コレステロールの吸収を防ぐので動脈硬化の予防も期待できます。うまみ成分のひとつであるアスパラギン酸は疲労回復に効果があるとされています。

見分けるポイント

- ・小ぶりですっきりしている
- ・切り口がみずみずしい
- ・根元のいぼや赤い斑点が少ない
- ・穂先が黄色（緑のものは日が当たっており筋がかたく、えぐみが強い）

※ゆでたけのこの白い粒はアミノ酸の一種のチロシンで害はありません。



東曾野木小学校からのメッセージ

広報広聴室

東曾野木小学校の皆さんから新潟市民病院の患者さんへ心のこもった作品、メッセージを6年生のお二人が届けてくれました。作品の授与式は3月9日に行われました。患者さんの癒し、勇気につながる作品、メッセージです。ぜひご覧ください。



編集後記

木々の芽も膨らみはじめ春の到来です。

4月は新しい年度の始まりですね。色々なスタートがあると思いますが、幸多き1年を過ごせるよう頑張ってください。

今年度も「ふれあいひろば」をよろしくおねがいします。[K]

新潟市民病院 広報広聴委員会

<http://www.hosp.niigata.niigata.jp>

新潟市中央区鐘木463-7

電話 025 (281) 5151

Fax 025 (281) 5187

予約センター 025 (281) 6600